

チェルノブイリ、福島が私たちに問うこと

原告 河野近子

1 はじめに

私は河野近子と申します。別府市在住の75歳になる女性です。現在ヘルパーをしております。

2 原発問題を知るきっかけ

40代初め、グリーンコープ生協で役員をしておりました。この生協は環境問題に熱心に取り組んでおり、その活動の中で原発問題を知ることになりました。

当時、大事故の時の桁外れな危険性を認識させられ、愕然としたものです。そして子ども達のために、日本で大事故を起こす前に、何としても全ての原発を止めなければ……との思いで走り始めました。

3 チェルノブイリで見聞きしたこと

1986年に爆発事故を起こし大規模な放射能汚染を引き起こした旧ソ連のチェルノブイリ原発。この被害の現状を日本に伝え、原発反対の世論を喚起しようとの思いで、事故の5年後から4回にわたり現地を訪れました。

当時、史上最悪といわれる大事故で、地球規模の放射能汚染をもたらしたチェルノブイリ原発。その凄まじさは大変なもので、放射能は地球の裏側の日本にまで飛んできました。環境が汚染され、汚染された食品や水を摂取した女性の母乳から放射能が検出されたとニュースで報道されて、子育て中の母親を不安にさせたものでした。ソ連に隣接するヨーロッパでは、強い放射能の雲に襲われて大地が放射能で汚染され、そこで生産された作物が深刻に汚されました。ヨーロッパ産食品の輸入禁止が世界中に広がり、大騒ぎになったものです。

しかし、チェルノブイリ原発周辺の放射能汚染は、この比ではありませんでした。人が住むことができないレベルの激烈な汚染を受けた原発周辺の半径30kmは、事故後すぐに立入禁止となり、住民12万人は無言を言わされず、着の身着のまま故郷を追われました。

それから3年後には、なんと300kmを超える先の広大な土地が強い汚染を受けていることが判りました。3年以上も知らずに住み続けていた人々は、強い放射線に被曝し続けてきましたので、私達が訪問した時には、子どもを中心に、甲状腺ガンや白血病をはじめとする、あらゆる病気に見舞われていました。ある汚染地の医者は「子ども達全て、大なり小なり病気を抱えている。完全に健康といえる子どもは1人

もない。」と吐露していました。

結局、人が住めないほどの深刻な汚染地から移住させられた人は40万人にも及んだということです。

4 原発事故のおそろしさ

一瞬にして広大な地域を汚染し、山も川も大地も全てを放射能まみれにしてしまう原発事故。しかも一旦ばら撒かれた放射能は、人の力では消すことができません。原子核それぞれの寿命で、放射能が減っていくのを待つしか無いのです。

大きな害をもたらすといわれているセシウム137が1000分の1まで減るには、300年という時間を要します。その間、大地から放射線を出し続け、生命に害を与え続けます。また、水や作物に入り込み、めぐりめぐって体内に摂り込まれた放射能は、体内で放射線を出し、細胞の至近距離から生体を痛め続けるのです。

人の力の遠く及ばない危険を内包している原発。たかが発電のために、このような超危険なものを採用する必要があるとは到底思えません。

5 福島事故

しかし、日本の原発が重大事故を起こす前に一刻も早く止めたいという願いも空しく、ついに福島第一原発で恐れていた重大事故が起きてしまいました。

政府の発表でも広島原爆168発分もの放射能が撒き散らされ、福島県はもとより、栃木県、群馬県、宮城県、岩手県、茨城県、千葉県、東京都等が、濃淡はあるものの広範囲に汚染されてしまいました。

最も激しい汚染を受けた人々は愛する故郷を追われ、大地に根付いた仕事も奪われて、見知らぬ土地で根無し草のような生活を強いられています。事故から11年を越えた今も、このような人々が10万～15万人もいるといわれています。

その上その周辺には、行政から見捨てられ汚染地で暮さざるを得ない人々が大勢います。誰が好んで汚染地に住みたいと思うのでしょうか。しかし、先祖代々生活を営んできた故郷を捨てるのは、容易なことではありません。補償金も打ち切られ、汚染された土地に帰るほか、選択肢がない人々があります。そのような人々が、被曝の不安を抱えながら、本来の法律では人の住めない汚染地で生きています。事故後11年を経た今もなお、原子力緊急事態が解除されていないのです。

もちろん宅地周辺や畑など、部分的には除染がされています。しかし、全ての放射能を取り除くことは不可能です。それに森や山などは全く手つかずのままです。いずれまた、風や雨に運ばれて拡がるで

しょう。

6 伊方原発は差し止められるべきこと

一旦大事故を起こせば、取り返しのつかない環境汚染を引き起こし、広大な土地を汚染してしまう原発。伊方原発で大事故が起これば、ここ大分の地も風向き次第では汚染の真っ只中に放り込まれるでしょう。故郷を追われ流浪することになる可能性があります。チェルノブイリでは300km先まで深刻な汚染地になりましたし、福島第一原発事故でも、ひとつ間違えば東京も人の住めない汚染地になる可能性があったと当時の内閣府原子力委員会委員長の近藤駿介氏が証言したのですから。

南海トラフに起因する巨大地震がいつ起きてもおかしくないといわれていますし、原発直近には中央構造線が横たわっています。伊方原発は日本の原発の中でも1, 2を争う危険な原発といわれています。大事故に見舞われ、故郷と子ども達の未来を放射能で汚染し尽くしてしまう前に、一刻も早く止めたいと、心の底から願い続けております。